

## 地域における親子の居場所とその特性について その1:居場所の有無と居場所感を構成する因子

正会員 外石 広美\*1 正会員 藪谷 祐介 \*2  
同 串田 優衣\*3 同 高橋 沙綾 \*4  
準会員 ○有原 千尋\*5 準会員 伊藤 野々香\*5

子育て環境 居場所 地域  
居場所感 因子分析 子育て

### 1 研究の背景と目的

現在の日本は子育てをしにくい社会状況にあり、親の育児ストレスや不安が問題視されている。現在、厚生労働省の地域子育て支援拠点事業を核に、親子の居場所を提供する子育て支援サービスが民間も含め数多く展開されている。しかし親子は提供されている居場所以外に地域の様々な場所を居場所として選択していると考えられる。どのような場所がどのような人たちに居場所だと認識されているのか、またどのような点で居場所だと感じられているのか、現状を把握することによって、今後地域に親子の居場所づくりをする上で有用な知見を得ることが出来ると考えられる。

本研究は、心理的居場所があることに伴う感情を表す居場所感という視点から、地域の中で親子にとって居場所だと認識されている場所の特性を明らかにすることを目的とする。本稿では、居場所の有無による人の特徴を明らかにし、さらに居場所感を構成する因子を抽出する。

### 2 調査方法

#### 2-1 調査概要

調査対象は、富山県富山市、高岡市に居住する子どもを持つ親（母親、父親）とする。

2都市内の5つの保健センターの乳幼児健診に参加し、訪れた母親又は父親に親子の居場所についてのアンケートを手渡しで配布・回収した(表1)。その場で回収出来なかったものは郵送回収も行った。アンケートの調査項目を表2に示す。回収数は401、有効回答数は260であった。

表1 調査日時

調査方法	アンケート調査/手渡しによる個別配布・個別回収,郵送回収
調査時期	2019年10月16日~11月22日
調査場所	富山市:南保健センター、中央保健センター、北保健センター、大山保健センター 高岡市:保健センター

表2 アンケート調査項目

調査項目	
基本属性	性別、年代、職業、現住居の居住年数、駅までの所要時間と交通手段、親との居住関係、子供の人数、末子年齢
場所と性質	親子で過ごす好きな場所、居場所感尺度
利用特性	利用頻度、所要時間と移動手段、過ごし方
育児環境	育児状況、行政の支援の満足度、環境の満足度
自由な時間と場所	子どもと離れて過ごす自由な時間・場所の有無、その場所、必要性

#### 2-2 居場所感尺度の作成

調査で使用する親子の居場所感尺度を作成するために、居場所に関する既往研究<sup>1)~6)</sup>から居場所感尺度の質問項目を抽出し、親子の居場所版に修正した。作成した20の質問項目を表3に示す。アンケートではまず、親子の居場所(親子で過ごす好きな場所)の有無を聞き、あると答えた場合は選択した場所について居場所感尺度20項目に対して五件法で回答を得た。

### 3 地域における親子の居場所の有無とその属性

居場所の有無を尋ねた結果を図1に示す。全体のおよそ4分の3の人が親子の居場所を持っていることが明らかになった。挙げられた14の居場所の集計結果を図2に示す。このうち今後の分析は回答の多かった「公園」64名、「商業施設」23名、「子育て支援施設」12名、「実家・親戚宅」67名を対象を絞って行う。

居場所の有無と親の基本属性の関連を明らかにするため、それらのクロス集計表を作成し、カイ二乗検定と残差分析を行った(表4)。居場所のある人は子どもを2人以上持ち、末子年齢が1~2歳であるのに対し、居場所のない人は子どもを1人持ち、末子年齢は1歳未満である傾向

がみられた。さらに居場所のない人は居住年数が1~2年が多いのに対し、ある人は少なかった。このことから子育て経験や現在の居住年数が長い人の方が居場所があると答えていることが分かる。子育てをしていく中で居場所を見つけたり、長く居住することで地域のことをよく把握し、それが居場所の発見につながった

表3 作成した居場所感尺度20項目

1	プライベートな話ができる人がいる
2	子どもと共にあたたかく受け入れてくれる
3	自分自身が大事にされる
4	仲が良い人が集まる
5	自由に過ごせる
6	周りを気にせず過ごせる
7	リラックスできる
8	思い入れがある
9	生活の一部になっている
10	明るくなごやかな雰囲気
11	新しい発見がある
12	色々な活動ができる
13	そこで自分に親であること以外の役割があると感じる
14	親である自分に自信が持てる
15	いろいろな人に接することができる
16	もの思いにふけったり頭の中を整理する
17	家から近い
18	気軽に入れる
19	無理をせず、ありのままの自分でいれる
20	家族以外のつながりができる

The Place of Parent and Child in the Community and Its Characteristics

Part1: Presence or Absence of "Ibasyo" and The factors that make up "Feeling of Ibasyo"

Sotoishi Hiromi, Yabutani Yusuke, Kushita Yui,  
Takahashi Saya, Itou nonoka, Arihara chihiro

りすると考えられる。

#### 4 居場所感を構成している因子

居場所感がどのような因子で構成されているのか明らかにするために、居場所感尺度の回答を用いて、因子分析を行った(表 5)。分析の過程で必要でない判断した居場所感尺度 2 項目については削除して因子分析を行った結果、3つの因子が見出された。各因子は以下のように解釈された。

第 1 因子は周囲との関係性にかかわる内容の項目が高い正の負荷量を示していた。そこで【濃密】因子と命名した。第 2 因子は自分自身の気持ちに基づき自然体でいられることに関する内容の項目が高い正の負荷量を示していた。そこで、【のびのび】因子と命名した。第 3 因子は新たな出会いや発見にかかわる内容の項目が高い正の負荷量を示していた。そこで、【刺激】因子と命名した。

#### 参考文献

- 1) 即定百合子：青年版心理的居場所感尺度の作成, 日本教育心理学会総会発表論文集 49(0), p337, 2007
- 2) 松橋圭子, 大原一興ほか：地域における親子の居場所選択からみた子育て支援施設のあり方に関する研究—東京都三鷹市における外出調査より—, 日本建築学会計画系論文集, 第 600 号, pp.25-31, 2006.2
- 3) 高橋晶子, 米川勉：青年期における「居場所」の研究, 臨床心理学 (5), 57-66, 2008 年,
- 4) 鬼塚史織：子育てグループにおける母親の居場所に関する研究(2)質的調査による母親の居場所概念の検討, 九州大学大学院人間環境学研究院紀要 13, pp171-178, 2012 年
- 5) 宮下敏恵, 石川もよ子：小学校・中学校における心の居場所に関する研究, 上越教育大学研究紀要 24(2), pp783-801, 2005 年
- 6) 岡本 卓也, 口田 江里：「居場所感」尺度の作成, 感情心理学研究 21 巻, 2013

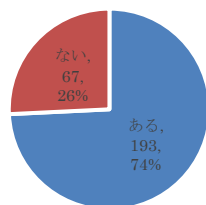


図 1 居場所の有無

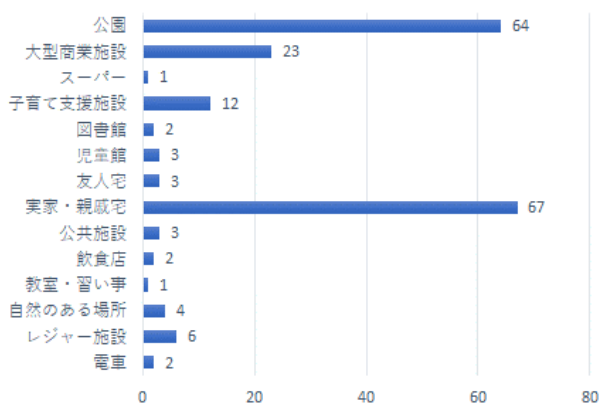


図 2 挙げられた親子の居場所

表 4 居場所の有無と属性・育児状況のクロス集計表

属性	カテゴリ	ある			ない			計	
		n	%	p値	n	%	p値	n	%
性別	男	35	13.50%		18	6.90%		53	20.4%
	女	158	60.80%		49	18.80%		207	79.6%
年代	20代	48	18.50%		24	9.20%		72	27.7%
	30代	124	47.70%		38	14.60%		162	62.3%
	40代	21	8.10%		5	1.90%		26	10.0%
職業	会社員・公務員	109	41.90%		41	15.80%		150	57.7%
	パートタイム	42	16.20%		9	3.50%		51	19.6%
	自営業	7	2.70%		1	0.40%		8	3.1%
	主婦(夫)	34	13.10%		16	6.20%		50	19.2%
	その他	1	0.40%		0	0.00%		1	0.4%
居住年数	1年未満	41	15.80%		16	6.20%		57	21.9%
	1~2年	47	18.10%	** ▽	27	10.40%	** ▲	74	28.5%
	3~5年	60	23.10%		16	6.20%		76	29.2%
	6~10年	30	11.50%		5	1.90%		35	13.5%
	11年~	15	5.80%		3	1.20%		18	6.9%
自宅から 市中心駅までの所要時間	5分以下	15	5.80%		4	1.50%		19	7.3%
	6~20分	123	47.30%		37	14.20%		160	61.5%
	21~40分	42	16.20%		17	6.50%		59	22.7%
	41~60分	12	4.60%		7	2.70%		19	7.3%
	61分~	1	0.40%		2	0.80%		3	1.2%
自宅から 市中心駅までの交通手段	徒歩	13	5.00%		6	2.30%		19	7.3%
	自転車	3	1.20%		3	1.20%		6	2.3%
	自動車	168	64.60%		54	20.80%		222	85.4%
	バス	4	1.50%		1	0.40%		5	1.9%
	電車	5	1.90%		3	1.20%		8	3.1%
親との居住関係	同居	26	10.00%		6	2.30%		32	12.3%
	近居	133	51.20%		52	20.00%		185	71.2%
	遠居	34	13.10%		9	3.50%		43	16.5%
子供の人数	1人	91	35.00%	** ▽	50	19.20%	** ▲	124	47.7%
	2人	76	29.20%	* ▲	15	5.80%	* ▽	105	40.4%
	3人以上	26	10.00%	* ▲	2	0.80%	* ▽	31	11.9%
子どもの年齢	1歳未満	83	31.90%	** ▽	41	15.80%	** ▲	141	54.2%
	1~2歳	86	33.10%	* ▲	19	7.30%	* ▽	91	35.0%
	3~4歳	24	9.20%		7	2.70%		28	10.8%

+p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01 (▲有意に多い, ▽有意に少ない)

表 5 因子分析結果

	【濃密】因子	【のびのび】因子	【刺激】因子
3.自分自身が大事にされる	.1	-.08	-.08
1.プライベートな話が出る人がいる	.86	.06	-.11
4.仲が良い人が集まる	.79	.04	-.06
2.子どもと共にあたたかく受け入れてくれる	.71	-.09	-.01
8.思い入れがある	.47	.28	.11
9.生活の一部になっている	.36	.28	.03
10.明るく穏やかな雰囲気	.34	.17	.25
6.周りを気にせず過ごせる	-.02	.92	-.13
5.自由に過ごせる	-.19	.80	.04
7.リラックスできる	.19	.75	-.09
19.無理をせず、ありのままの自分でいれる	.17	.65	-.03
16.もの思いにふけったり頭の中を整理できる	.18	.42	.17
11.新しい発見がある	-.24	.07	.69
15.いろいろな人に接することができる	.21	-.19	.61
12.色々な活動が出来る	-.24	.29	.50
20.家族以外のつながりができる	.16	-.21	.47
14.親である自分に自信が持てる	.38	-.03	.42
13.そこに親であること以外の役割がある	.26	.19	.31
因子間相関	I	II	III
	I	-.57	.52
	II		-.40
	III		

\*1 阿部建設株式会社

\*2 富山大学芸術文化学部 講師・博士 (デザイン学)

\*3 富山市役所

\*4 株式会社日総建

\*5 富山大学芸術文化学部 学部生

\*1Abe Construction Co., Ltd.

\*2Senior Assist.Prof.,Faculty of Art and Design,Univ. of Toyama,Doctor of Design

\*3City hall of Toyama

\*4NISSOKEN Architects/Engineers

\*5Faculty of Art and Design,Univ. of Toyama,Undergraduate